

ワーカーズコープの働き方を知ってほしい

田中羊子（労協センター事業団専務理事）

相良孝雄（労協センター事業団東京事業本部）

田中 センター事業団をつくって20年。失業した時、また雇われるしかないのか、もうけのために使われるのではなく、自分たちの手で社会に役立つ仕事を



おこし、そこを通じて人間として発達できる力があるはず。そのことを日本社会に示そう、という思いでした。

委託事業を通じて、働きがいを持って、主体者として成長できるような事業・経営の道筋を見いだそうと格闘した10年。地域社会に貢献できる存在になろう、地域の福祉の担い手として事業をおこそうと、高齢者協同組合を全国でつくり、地域福祉事業所をひろげてきた次の10年。

公共サービスの民営化に対し、市場化・営利化ではなく、市民参加を拡げ、まちづくりにつなげようと提起。障がい者、ホームレスの就労支援、子育て支援など人間の成長・発達そのものが労働の対象となってくるなかで協同労働の価値が実感でき、大量の若者が運動に参加。自治体や地域の方も協同労働の働

き方を、受けとめ、民営化反対の人たちが労協を応援する側にまわってくれています。協同労働の協同組合法が確立することで、もっと多くの人にこういう働き方、事業のおこし方があることを知ってほしい。

自分の本音と、組織の本音が一つで、前向きな本音をありのままに言え、力が発揮でき、そのことを通じて主体者となれるような日本社会をつくっていきたいと思います。

相良 児童館の指導員をして1年。評判が良い理由を聞かれ、「人間の可能性を信じ、働く人同士で協同し、地域と協同し、利用者



と協同している。児童館を地域コミュニティの核にと考えているから」と答えます。

自立し、協同し、話し合いを重視し、多くの人が夢をもって、平和で協同しあえる社会をつくりたい。